

1 突然死を予防する目的で植込み型徐細動器の適応となる疾患・病態として誤っているのはどれか。

- a Brugada症候群
- b 先天性QT延長症候群
- c 持続性心室頻拍
- d 催不整脈性右室心筋症
- e 徐脈頻脈症候群

2 側頭葉起源の複雑部分発作に特徴的な症状はどれか。3つ選べ。

- a 前兆
- b 尿失禁
- c 一点凝視
- d 口部自動症
- e 四肢のけいれん

3 血管外溶血をきたすのはどれか。

- a 赤芽球癆
- b G-6-PD欠損症
- c 再生不良性貧血
- d 発作性夜間血色素尿症
- e 遺伝性橢円状赤血球症

4 非結核性抗酸菌症について正しいのはどれか。

- a ヒトからヒトへ感染する。
- b *M. Kansaii* が最も多い。
- c 治療は結核と同様である。
- d 胸水貯留をきたすことが多い。
- e PCR検査でヒト型結核菌と鑑別できる。

5 片側副腎腫瘍摘除術後に副腎皮質ステロイドホルモンの補充が必要なのはどれか。

- a 原発性アルドステロン症
- b 非機能性副腎腺腫
- c Cushing症候群
- d 褐色細胞腫
- e 副腎脂肪腫

6 Raynaud症候群を合併しないのはどれか。

- a 混合性結合組織病〈MCTD〉
- b 全身性硬化症〈強皮症〉
- c 振動工具作業
- d 甲状腺機能低下症
- e 成人Still病

7 バセドウ病の眼症状はどれか。3つ選べ。

- a Graefe徴候
- b Moebius徴候
- c Chvostek徴候
- d Trousseau徴候
- e Dalrymple徴候

8 脳の白質が障害されるのはどれか。2つ選べ。

- a 多発性硬化症
- b 結節性硬化症
- c Parkinson病
- d Huntington病
- e 急性散在性脳脊髄炎

9 挙児希望を有する第二度無月経症例の排卵誘発に用いられるのはどれか。

- a クロミフェンサイトレート
- b プロモクリプチン
- c GnRHアゴニスト
- d hMG
- e hCG

10 硫化水素中毒について正しいのはどれか。

- a 自然環境中での発生は稀である。
- b 慢性曝露で多発性神経炎を起こす。
- c 1 ppmの濃度で嗅覚鈍麻を起こす。
- d 数日間の潜伏期の後に肺水腫を起こす。
- e 酸素欠乏危険場所での発生が知られている。

11 乳児化膿性股関節炎の起因菌はどれか。

- a 結核菌
- b 緑膿菌
- c 非定型抗酸菌
- d 黄色ブドウ球菌
- e インフルエンザ桿菌

12 肺癌について正しい組合せはどれか。

- a 腺 癌———肺門（中心）型肺癌
- b 扁平上皮癌———肺野（末梢）型肺癌
- c 小細胞癌———異所性ACTH産生腫瘍
- d 大細胞癌———化学療法、放射線療法に感受性が強い
- e カルチノイド腫瘍———胸部CTにて胸膜陥入像

13 身体的依存性がないのはどれか。

- a アルコール
- b コカイン
- c ベンゾジアゼピン系抗不安薬
- d ブチロフェノン系抗精神病薬
- e バルビツール系睡眠薬

14 鼻腔に流入しない動脈はどれか。

- a 眼動脈
- b 顎動脈
- c 舌動脈
- d 顔面動脈
- e 前篩骨動脈

15 エックス線透過性が高い尿路結石はどれか。2つ選べ。

- a 尿酸結石
- b サング状結石
- c シスチン結石
- d シュウ酸カルシウム結石
- e リン酸マグネシウムアンモニウム結石

16 帝王切開の翌朝、褥婦が左下肢の腓腹部疼痛と下腿浮腫を訴えた。

まず、行うことは何か。

- a 造影CT撮影
- b 利尿薬の投与
- c 血液ガス分析
- d 下肢静脈超音波検査
- e 早期離床

17 β ラクタム系抗菌薬が推奨されない感染症はどれか。

- a 日本紅斑熱
- b リステリア症
- c 髄膜炎菌感染
- d 肺炎球菌感染
- e インフルエンザ菌感染

18 急性陰嚢症の中で緊急手術が必要な疾患はどれか。

- a 精液瘤
- b 陰嚢水腫
- c 精巣捻転症
- d 精巣上体炎
- e 精巣静脈瘤

19 ヒトT細胞白血病ウイルス（HTLV-1）に関して誤っているのはどれか。

- a 母子感染を起こす。
- b 白血病を引き起こす。
- c 逆転写酵素を持つ。
- d CD4分子をレセプターとして感染する。
- e プロウイルスとして宿主DNAに組み込まれる。

20 染色体異常はどれか。2つ選べ。

- a 捻 転
- b 陥 入
- c 脱 落
- d 逆 位
- e 欠 失

21 慢性腎不全患者の血液検査所見で低値となるのはどれか。2つ選べ。

- a リン
- b カリウム
- c カルシウム
- d マグネシウム
- e ヘマトクリット

22 抗リン脂質抗体症候群について誤っているのはどれか。2つ選べ。

- a 心筋梗塞の合併がみられる。
- b 梅毒血清反応生物学的偽陽性を示す。
- c 末梢血中の血小板数の減少がみられる。
- d aPTTの延長は正常血漿との混合では正される。
- e 習慣性流産の予防にはワルファリンが用いられる。

23 52歳の男性。生来健康。2か月前海外旅行中強盗に遭い、その際拳銃で脅され暴行を受けた。身体は軽傷で済み回復したが、帰国後精神面の不調を訴え来院した。

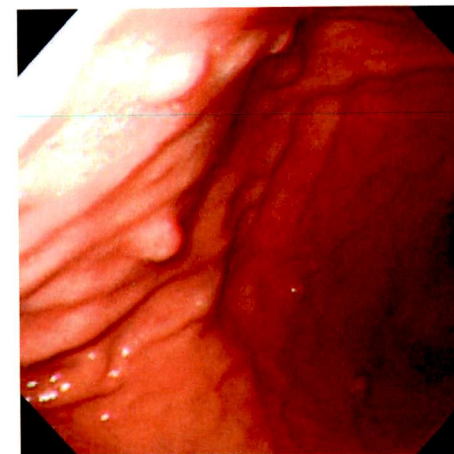
認められない症状はどれか。2つ選べ。

- a 不眠
- b 観念奔逸
- c アンヘドニア
- d フラッシュバック
- e 体感幻覚

24 38歳の女性。上腹部不快感を主訴に来院した。来院後に施行した上部消化管内視鏡写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 高率に癌化する。
- b 前庭部に多くみられる。
- c 経過観察が可能である。
- d 内視鏡的摘除の適応である。
- e 萎縮性胃炎に合併しやすい。



上部消化管内視鏡写真

25 53歳の男性。全身倦怠感と黄疸を主訴に来院した。

体温 37.8℃ 全身の皮膚に黄染が認められ、掻痒感がある。

診察中に意識低下が出現したため、入院となった。血圧 138/83 mmHg。肝・脾を触知しない。

心拍・呼吸音正常。

現病歴：5日前に海外旅行から帰ってきた。3日前から微熱、軽度の下痢がある。

既往歴・家族歴：特記すべきことなし。現在までの定期検診で肝機能異常を指摘されたことはない。

<検査所見>

AST 250 IU/l ALT 580 IU/l γ -GTP 100 IU/l (基準 8~50) 総ビリルビン 30 mg/dl 直接ビリルビン 28 mg/dl 総蛋白 6.5 g/dl アルブミン 2.8 g/dl プロトロンビン時間 30 秒 (基準 10~14) HBs 抗体陰性 HBe 抗原陰性 HAV抗体陽性

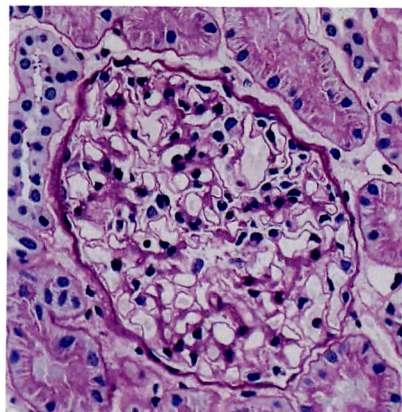
この患者の治療で正しいのはどれか。

- a インターフェロン療法
- b 抗凝固療法
- c 血漿交換
- d 血液透析
- e 抗菌薬投与

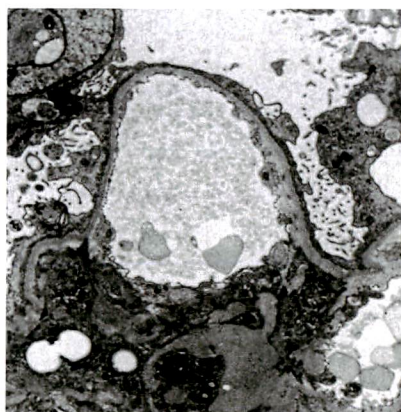
26 22歳の男性。下肢のむくみを主訴に来院した。これまでの健診で尿所見異常を指摘されたことはない。1週間前より両下肢のむくみが出現し体重が4kg増加した。来院時、脈拍 78/分。血圧 100/68 mmHg。肺野清。心雑音なし。肝脾を触知せず。両下腿に浮腫あり。尿所見：蛋白 3+、蛋白定量 3.6 g/日、潜血 (-)。血液生化学所見：総蛋白 5.6 g/dl、アルブミン 2.6 g/dl、総コレステロール 284 mg/dl、尿素窒素 25 mg/dl、クレアチニン 0.8 mg/dl。腎生検PAS染色標本と糸球体電子顕微鏡標本を示す。蛍光抗体法では免疫グロブリン、補体の局在を認めなかった。

正しいのはどれか。2つ選べ。

- a LDL吸着療法を行う
- b 低蛋白食を指導する
- c ステロイド薬を投与する
- d 生理食塩水を点滴投与する
- e アルブミン製剤を点滴投与する



腎生検PAS染色標本

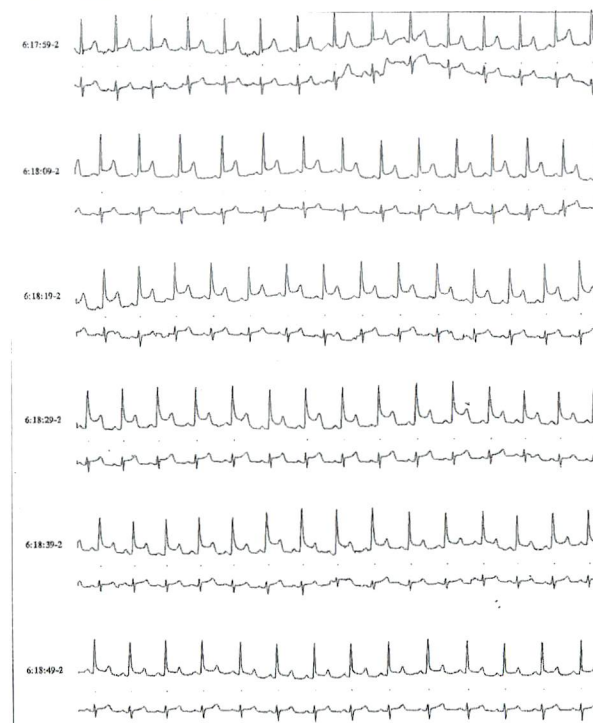


糸球体電子顕微鏡標本

27 48歳の男性。3か月前より夜間から早朝にかけて冷汗を伴う胸部圧迫感を自覚するようになった。近医で冠動脈MDCT検査を受けたが有意狭窄は認められなかった。発作の持続時間は5～10分程度で、日中労作時に胸部症状の出現は見られない。発作時のホルター心電図を図に示す。

この疾患について正しいのはどれか。

- a 運動負荷は発作の誘因とはならない。
- b 喫煙との因果関係は少ない。
- c エルゴノビン投与が治療に有効である。
- d カルシウム拮抗剤が治療に有効である。
- e 直ちに経皮的冠動脈形成術を行う。



ホルター心電図

28 64歳の男性。1週間前から急速に進行する認知症と、四肢の痙攣発作および不随意運動を認めるため家人に付き添われて来院した。一般身体所見では体温が37.8℃以外は異常なし。神経学的には、意識がJapan coma scale II-30、四肢にごく軽度の筋固縮を認め、四肢腱反射は亢進し、両側でBabinski反射を認める。頭部MRIでは異常を認めていない。髄液所見では、初圧は 260 mmH₂O、細胞数 45/ μ l (単核球100%)、蛋白 78 mg/dl、糖 67 mg/dl (同時採血の血糖 102 mg/dl)。

診断は何か。

- a 日本脳炎
- b 神経梅毒
- c 細菌性髄膜炎
- d Creutzfeldt-Jakob病
- e 進行性多巣性白質脳症

29 70歳の男性。動悸と息切れを主訴に受診した。既往歴に特記すべきことはない。半年前から何となく疲れやすくなった。1か月前から坂道を歩くときに動悸と息切れを自覚するようになったため来院した。

身長 170 cm、体重 57 kg。脈拍 76回/分、整。血圧 122/76 mmHg。体温 36.4℃。眼瞼結膜に貧血あり、眼球結膜に黄染なし。皮膚、粘膜に出血所見なく、表在リンパ節腫脹なし。腹部は平坦で肝脾を触知せず、神経学的に明らかな異常所見を認めない。

検査所見：白血球数 5,800、赤血球数 218万、Hb 4.9 g/dl、Ht 16.8%、血小板数 36.2万、網赤血球 0.9%、AST 10 IU/l、ALT 5 IU/l、BUN 15.0 mg/dl、クレアチニン 0.87 mg/dl、CRP 0.05 mg/dl、血清鉄 7 μ g/dl、血清フェリチン<4 ng/ml(基準 13~277)、尿糖(-)、尿タンパク(-)、尿潜血(-)

次に行うべき検査はどれか。

- a 骨髓穿刺
- b 全身CT検査
- c 心臓超音波検査
- d 便潜血反応検査
- e 腹部超音波検査

30 58歳の男性。3か月前より筋力低下、易疲労感を自覚していた。1か月前より呼吸困難を感じるようになり受診した。

動脈血液ガス分析(自発呼吸、room air)はPaCO₂ 56 Torr、PaO₂ 68 Torrであった。

吸入気酸素分圧 150 Torr、呼吸商 0.8とした時、肺泡気動脈血酸素分圧較差(AaDO₂)はどれか。

- a -4.0 Torr
- b 9.0 Torr
- c 12.0 Torr
- d 37.2 Torr
- e 63.5 Torr

31 12歳の女児。5日前から続く38~39℃の発熱と咽頭痛を主訴に来院した。両側頸部に母指頭大のリンパ節を数個触知する。右肋骨弓下に肝を2cm、左肋骨弓下に脾を2cm触知する。血液所見：赤血球 502 万、Hb 12.6 g/dl、Ht 43 %、白血球数 18,600 (桿状核好中球3%、分葉好中球 29 %、単球3%、リンパ球 62 %、異型リンパ球 11 %)、血小板 21 万。血清生化学所見：総ビリルビン 0.8 mg/dl、AST 120 IU/l、ALT 140 IU/l、LDH 480 IU/l (基準176~353)。CRP 0.8 mg/dl。

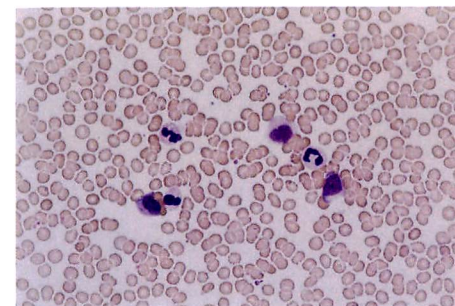
診察時の咽頭写真と末梢血塗抹標本を示す。

本疾患の初期治療はどれか。

- a ステロイドパルス療法
- b アンピシリン
- c 免疫グロブリン
- d 経過観察
- e 抗癌剤



咽頭写真

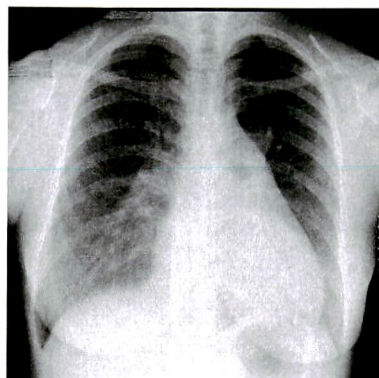


末梢血塗抹標本

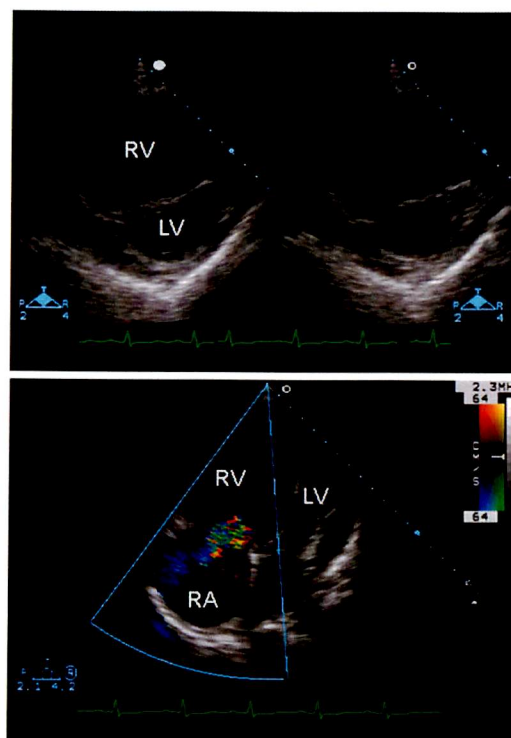
32 30歳の女性。生来健康であった。労作時の呼吸苦と動悸が出現するようになったために来院。脈拍 100 /分、整。血圧 87/60 mmHg。頸静脈の怒張と下肢の浮腫、胸部聴診所見ではⅡ音の増強を認めた。胸部エックス線写真と心エコー図を示す。

考えるべき診断はどれか。2つ選べ。

- a 肺塞栓症
- b 拡張型心筋症
- c 僧帽弁逆流症
- d 原発性肺高血圧症
- e 肥大型心筋症



胸部エックス線写真



心エコー図

33 58歳の男性。2年前に人間ドックでAST、ALTの異常とHBs抗原陽性を指摘された。以後定期的に通院している。現在の検査結果は次のとおりである。

血液所見：血小板 20 万、プロトロンビン時間 90 % (基準 80 ~120)。

血清生化学所見：総蛋白 7.0 g/dl、アルブミン 4.3 g/dl、IgG 1.360 mg/dl (基準 960 ~1.960)、総ビリルビン 0.6 mg/dl、AST 110 IU/l、ALT 130 IU/l、ALP 210 IU/l (基準 260以下)、 γ -GTP 30 IU/l (基準 8 ~50)。

免疫学所見：HBs抗原陽性、HBe抗原陽性、HBe抗体陰性、HCV抗体陰性。

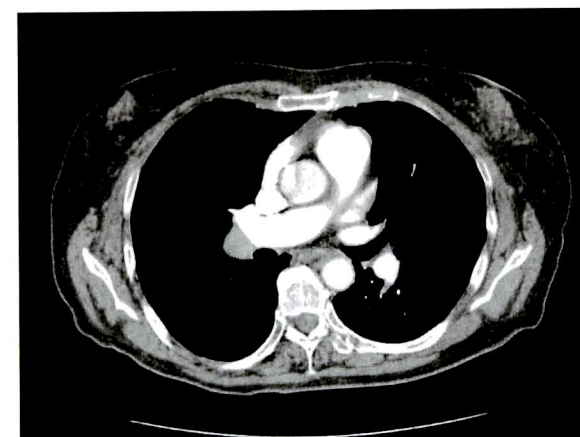
適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 自然治癒が期待できる。
- b 慢性肝炎と診断して良い。
- c 同胞のHBs抗原検査を勧める。
- d ガンマグロブリンの投与は治癒を促進する。
- e リバビリンの投与は肝癌発症のリスクをさげる。

34 78歳の女性。右大腿骨頸部骨折の術後に長期臥床が続いた。リハビリテーションを開始したところ、突然の胸痛と呼吸困難を認めた。身長 152 cm、体重 65 kg。意識清明。体温 36.5℃。呼吸数 40/分。脈拍 140/分、整。血圧 90/60 mmHg、左右差なし。心音でⅡ音亢進。動脈血液ガス分析 (室内気)：pH 7.46、 PaO_2 64 Torr、 PaCO_2 36 Torr。心電図では第Ⅲ誘導で異常Q波を認めた。胸部造影CTを示す。

考えられるのはどれか。

- a 心筋炎
- b 緊張性気胸
- c 肺血栓塞栓症
- d 心タンポナーデ
- e 急性大動脈解離



胸部造影CT

35 42歳の女性。最近家族にいびきがひどくなったことを指摘され来院した。身長 158 cm、体重 56 kg。口唇の肥大、眉弓と下顎の突出を認める。指がごつごつした感じになり結婚指輪が入らなくなった。また靴のサイズが合わなくなったことも自覚している。

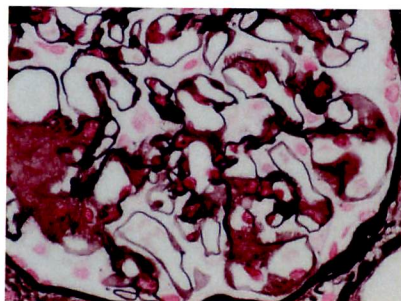
本疾患に合併するのはどれか。3つ選べ。

- a 高血圧
- b テタニー
- c 耐糖能障害
- d 中心性肥満
- e 大腸ポリープ

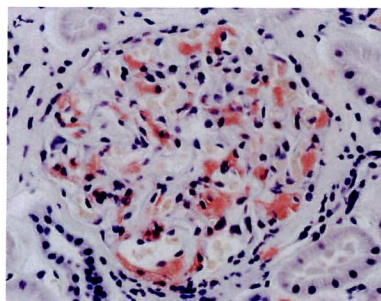
36 62歳の女性。労作時の息切れを主訴に来院した。3か月前より下肢のむくみを自覚。1週間前より労作時の息切れを認めた。来院時、脈拍 55/分。血圧 98/52 mmHg。体温 36.2℃。両下肺野に湿性ラ音を聴取。心尖部で収縮期雑音聴取、肝2横指触知、両下腿に浮腫あり。尿所見：蛋白（-）、蛋白定量 4.3g/日、潜血（-）、糖（-）。血液生化学所見：総蛋白 5.2 g/dl、アルブミン 2.2 g/dl、尿素窒素 32 mg/dl、クレアチニン 1.4 mg/dl。腎生検PAM染色標本とコンゴアレッド染色標本を示す。

この患者にみられるのはどれか。

- a 間質性肺炎
- b HCV抗体陽性
- c 両側腎臓萎縮
- d 抗糸球体基底膜抗体陽性
- e 尿中ベンスジョーンズ蛋白陽性



腎生検PAM染色標本



コンゴアレッド染色標本

37 2歳の男児。発熱および咳を主訴に来院した。生後6か月頃から気道感染と膿皮症とを繰り返している。体温 39.2℃。血液所見：白血球 14,700。血清生化学所見：IgG 110 mg/dl（基準 280～700）、IgA 検出感度以下（基準 10～60）、IgM 検出感度以下（基準 30～120）、CRP 14.5 mg/dl。

この疾患で正しいのはどれか。

- a 好中球の機能に異常がある。
- b 常染色体劣性遺伝である。
- c 関節炎の合併がみられる。
- d 細胞性免疫不全である。
- e 水痘が重症化する。

38 75歳の女性。アルコール多飲者である。糖尿病にて外来通院していたが、血糖コントロールは不良であった。1週間前から発熱、咳嗽、食欲低下を認め、来院した。胸部エックス線で肺炎と診断され、緊急入院となった。入院後、安静、禁食、電解質・糖の補液、抗生物質投与にて肺炎は回復した。その後食事を開始するも、摂取は不良であった。入院3週後から、意識の軽度混濁が出現した。身長 158 cm、体重 39 kg。呼吸数 18/分。脈拍 76/分、整。血圧 130/78 mmHg。胸部聴診にてラ音は聴取しない。腹部は平坦で肝脾に腫大を認めない。下肢に浮腫を認めない。項部硬直はないが、運動失調、外眼筋性眼球運動障害を認める。血小板 25 万、血糖値 232 mg/dl、HbA_{1c} 7.9 %、総蛋白 6.2 g/dl、アルブミン 3.3 g/dl、尿素窒素 12 mg/dl、クレアチニン 0.5 mg/dl、AST 32 単位、ALT 24 単位、ALP 220 単位（基準260以下）、アミラーゼ 180 単位（基準37～160）、アンモニア 68 μg/dl（基準70以下）。

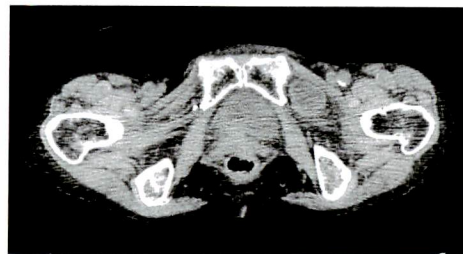
最も考えられるのはどれか。

- a 糖尿病性ケトアシドーシス
- b Wernicke脳症
- c 重症筋無力症
- d ヘルペス脳炎
- e 肝性脳症

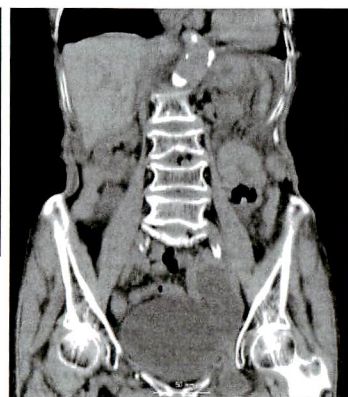
- 39 82歳の女性。腹痛を主訴に来院し、腹部単純エックス線ではニボーを伴う小腸ガス像が認められた。明らかな腫瘍は触知せず、大腿内側に放散する痛みを認めた。来院時の腹部CT画像①、②を示す。

この疾患につき正しいのはどれか。

- a 高齢の肥満女性に多い。
- b 嵌頓することはまれである。
- c 緊急手術となることが多い。
- d Richter型ヘルニアはまれである。
- e Howship-Romberg兆候をほとんどの症例に認める。



腹部CT画像①



腹部CT画像②

- 40 4か月の乳児。筋緊張低下と吸綴力微弱による哺乳困難を主訴に来院した。アーモンド型の眼瞼裂、魚様の三角口を呈し、皮膚は色白で手足が小さく、小陰茎、両側停留辜丸を認める。

この疾患で正しいのはどれか。2つ選べ。

- a 低身長を認める。
- b 性染色体異常が原因である。
- c 病的骨折を起こす。
- d 網膜色素変性を合併する。
- e 精神発達遅滞を認める。

- 41 60歳の女性。性器出血と陣痛様下腹痛とを訴えて来院した。最も考えられる疾患はどれか。

- a 子宮内膜炎
- b 子宮筋腫
- c 子宮体癌
- d 卵管癌
- e 卵巣癌

- 42 ある町で下痢や腹痛を訴える者が相次ぎ、住民の半数以上にのぼった。そのすべてが町営水道水を飲用していたが、煮沸した水の飲用者に症状はみられなかった。末端の給水栓からは衛生上必要な遊離残留塩素が検出された。

下痢、腹痛の最も可能性が高いのはどれか。

- a 鉛
- b トリハロメタン
- c クリプトスポリジウム
- d 腸チフス菌
- e 病原性大腸菌

- 43 12歳の男児。3か月前より誘因なく右股関節鈍痛を主訴に来院した。既往歴に特記すべきことはない。股関節単純エックス線写真を示す。

診察上みられる所見はどれか。

- a Allis徴候
- b Froment徴候
- c Lasague徴候
- d telescope sign
- e Drehmann徴候



股関節単純エックス線写真

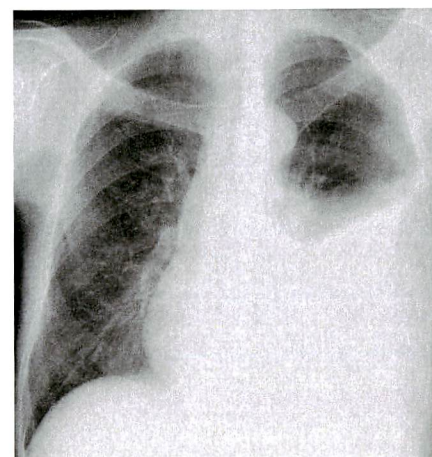
44 10歳の女兒。1週間ほど前から乾性咳嗽、くしゃみ、鼻水、37℃の微熱といった感冒症状がみられ、徐々に乾性咳嗽がひどくなってきたことを主訴に来院した。乾性咳嗽は夜間に多くみられ、コンコンと連続した咳の後に、「ヒュー」という音と共に息を吸い込む咳発作を繰り返した。咳発作がひどい時には、顔面が真っ青になり嘔吐することもあった。3週間前より、父親が夜間に多い咳が続いていたが、症状は軽度であった。

この疾患について正しいのはどれか。

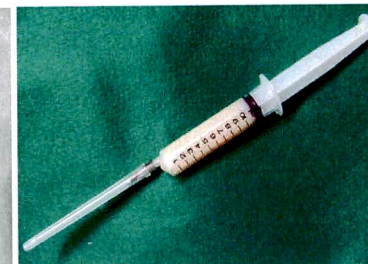
- a 乳児には感染しない。
- b 終生免疫が得られる。
- c 感染力は初期に最も強い。
- d 飛沫による感染は少ない。
- e 潜伏期間は1か月程度である。

45 66歳の男性。胃癌にて胃全摘術後3年目の経過観察において、胸部エックス線写真で異常陰影を指摘され来院した。術後病期ⅢB期の胃噴門部の腺癌ため、術後に化学療法が行われている。全身状態は、体温 36.4℃。呼吸数 12/分。脈拍 70 回/分、整。血圧 140/74 mmHg。心音に異常を認めない。血液所見：赤血球 324 万、Hb 10.2 g/dl、Ht 32.1 %、白血球 3,940。腫瘍マーカー CEA 4,780 ng/ml (正常5.0 ng/ml 以下)。精査のために、左胸腔穿刺を施行した。

胸部エックス線写真正面像と左胸腔穿刺の性状を示す。



胸部エックス線写真



胸腔穿刺液

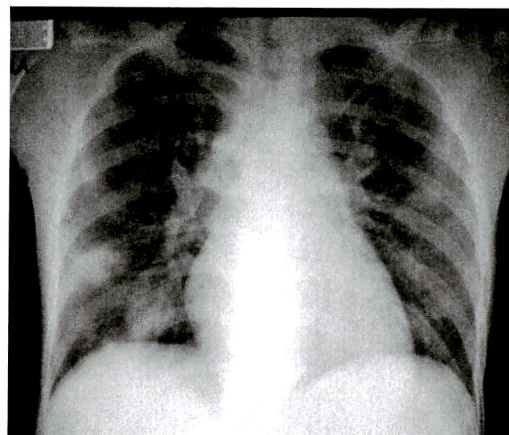
まず行うべき治療はどれか。2つ選べ。

- a 胸腔ドレナージ
- b 緊急開胸術
- c 利尿薬投与
- d 抗菌薬投与
- e 食事制限

- 46 27歳の女性。1か月前から持続する発熱と易疲労感を主訴に来院した。覚醒剤の静注歴がある。体温 38.0℃。脈拍 98 /分、整。血圧 116/68 mmHg。胸骨左縁第4肋間と心尖部で 3/6 度の収縮期雑音を聴取する。血液所見：赤血球300万。Hb 10.0g/dl。Ht 29%。白血球 15,800。血小板 9万。CRP 12.3 mg/dl。来院時の心エコーで、三尖弁と僧帽弁に疣贅を認めた。胸部エックス線写真を示す。

外科的治療を考慮する際に、手術のタイミングを遅らせるべき病態はどれか。2つ選べ。

- a 脳出血
- b 肺梗塞
- c 肺うっ血
- d 貧血の進行
- e 血液培養陰性



胸部エックス線写真

- 47 45歳の男性。会社員。妻と娘と同居。大学卒業後、現在の会社に勤務。入社以来営業職に就き、仕事の付き合いで飲酒する機会が多かった。30歳前後から毎晩飲酒するようになり、徐々に酒量が増加した。元々勤務態度は真面目であったが、3年前から接待で飲酒しているときに急に人が変わったように怒りっぽくなることが多くなり、上司や他の客と口論することがあった。1年くらい前から深酒した翌日に手指振戦が出現するようになった。最近、週末には朝から飲酒して平日に仕事を休むことも多くなった。普段の性格は温厚であったが、飲酒時には妻に対して暴言や暴力を認める。

この症例の診断として適切なのはどれか。2つ選べ。

- a アルコール幻覚症
- b 複雑酩酊
- c Wernicke脳症
- d Korsakoff症候群
- e アルコール依存症

- 48 17歳の男子。二次性徴の遅れを主訴に来院した。身長 176.3 cm (+1.0S.D.)、体重 60 kg。手足が長い。女性化乳房がみられる。外性器は男性型で、精巣は小さく、陰毛を認めない。

最も考えられる核型はどれか。

- a 46, XY
- b 45, X
- c 47, XY, +21
- d 47, XXY
- e 47, XXX

- 49 11歳の男児。幼少期よりアトピー性皮膚炎を認めていたが最近では外用治療をしていなかった。数日前より40℃の発熱を伴い、顔面、上背部に発疹を認め、急速に拡大した。背部の写真を示す。第一に行う治療として適切なのはどれか。

- a 抗菌薬の点滴
- b 抗真菌薬の内服
- c 免疫抑制薬の内服
- d 抗ウイルス薬の点滴
- e 副腎皮質ステロイド薬の内服



背部の写真

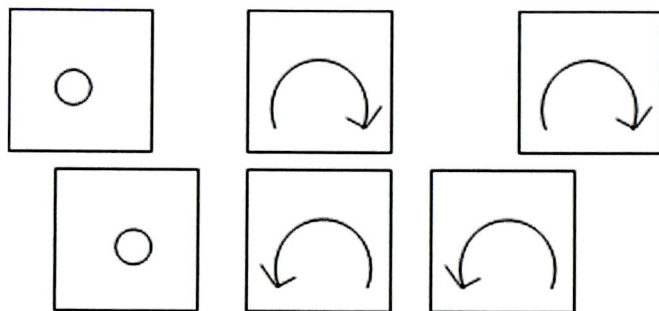
50 40歳の男性。5日前から、朝起き上がるときに回転性のめまいを自覚した。

回転性めまいはそのままじっと動かないでいると3分程度でおさまったが、また少しでも動くと回転性めまいを感じた。また夜床につくときも回転性めまいを感じ、めまいが反復するために来院した。吐気強く、嘔吐を認めた。聴力障害はなく、耳鳴り、耳閉塞感もなかった。手足のしびれ、舌のもつれなどめまい以外に神経学的異常所見は認められなかった。鼓膜所見には、中耳炎の所見はなかった。1週間前に頭部に打撲を負ったことがある。

初診時に認められた眼振を図に示す。

本症例について正しいのはどれか。

- a めまいには眼前暗黒感を伴う。
- b 右耳のあぶみ骨筋反射が陰性である。
- c 眼振には潜伏時間、減衰傾向を認める。
- d 視標追跡検査（ETT）ではsaccadic patternを示す。
- e 視運動性眼振検査（OKP検査）では左反応低下を示す。



図

51 28歳の男性。キックボクシングの試合中に左側腹部を強打し、左側腹部痛と肉眼的血尿が持続したため搬送された。来院時は軽度の出血性ショックの状態であった。腹部造影CTを示す。血圧は保たれて、意識清明であるが貧血が確認された。血色素量は 9.8 g/dlであった。

緊急に行う処置として適切なのはどれか。

- a 血管造影
- b 腎摘除術
- c 経皮的膀胱瘻造設術
- d 肋骨骨折に対する固定
- e 水溶性造影薬による尿道造影

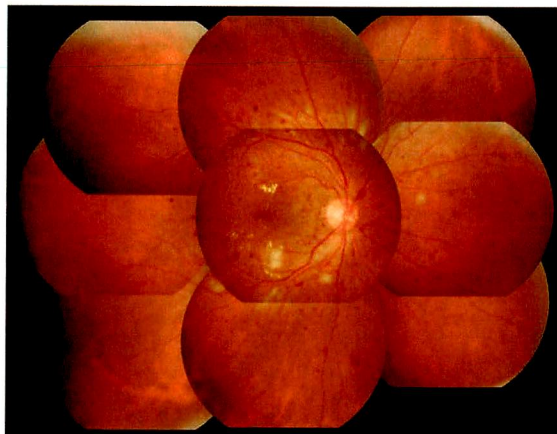


腹部造影CT

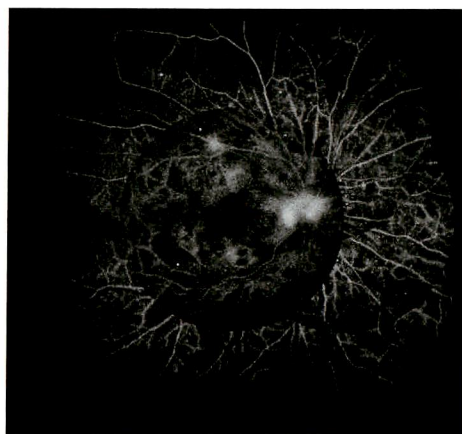
- 52 55歳の女性。15年前に糖尿病を指摘されたが、10年前より放置していた。1か月前より両眼の視力低下を自覚し来院した。視力は右眼 0.2 (0.6×+1.0D)、左眼 0.2 (0.7×+1.0)、眼圧は正常であった。右眼の眼底写真と蛍光眼底造影写真を示す。左眼も同様の所見であった。

まず行うのはどれか。

- a 硝子体手術
- b 高圧酸素療法
- c 光線力学療法
- d 網膜光凝固術
- e 網膜冷凍凝固術



右眼の眼底写真



蛍光眼底造影写真

- 53 15歳の男子。鼻閉を主訴に来院した。以前より右鼻閉を認め、またしばしば鼻出血を繰り返していた。右鼻腔後方から鼻咽腔にかけて暗赤色の腫瘍病変を認めた。

同部位の造影CTを示す。

次に行う検査として最も適切なものはどれか。

- a 頸動脈造影
- b 頸部超音波
- c 静脈性嗅覚検査
- d 上部消化管内視鏡
- e ガリウムシンチグラフィ



造影CT

- 54 9歳の男児。2年前から不随意的な素早いまばたき、肩の動きが続いている。4か月前より唐突に声を出し、ひわいな言葉を言うようになり病院を受診した。脳波検査で異常所見はない。

考えられる診断はどれか。

- a Tourette症候群
- b 注意欠陥多動性障害
- c てんかん
- d 慢性運動性チック障害
- e 精神遅滞

55 65歳の女性。路上で転倒し右手掌をついた。右手関節部の腫脹と疼痛を認めた。右手関節単純エックス線写真を示す。

この疾患で損傷する可能性が高い神経はどれか。

- a 副神経
- b 橈骨神経
- c 腋窩神経
- d 正中神経
- e 筋皮神経



右手関節単純エックス線写真①



右手関節単純エックス線写真②

56 47歳の女性。数か月前から発汗やのぼせが著明となった。4年前に子宮筋腫の診断で腹式子宮全摘出術を受けた既往がある。血圧 124/62 mmHg、両側付属器は触知しない。血液所見：TSH 1.0 μ IU/ml (基準 0.3～4.0)、F-T3 2.7 pg/ml (基準 2.5～4.3)、F-T4 1.3 ng/dl (基準 1.0～1.8)、FSHとLHはともに高値を示し、エストラジオールは測定感度以下であった。

正しいのはどれか。

- a 乳がん検診は必要ない。
- b 本人の性格が発症に関与しない。
- c エストロゲン製剤に黄体ホルモン剤を併用する。
- d 黄体ホルモン剤を単独で投与する。
- e エストロゲン製剤を単独で投与する。

57 80歳の女性。高熱を主訴に来院した。年末より鼻汁と咽頭痛があり、3日後から悪寒・戦慄と全身倦怠感、筋肉痛がある。介護老人福祉施設に入所中であり、同様の症状を呈する者がいる。意識は清明であるが、咳込むと苦しいという。脈拍 88 /分。血圧 130/75 mmHg。前胸部に湿性ラ音が聴取される。鼻腔粘膜病原微生物抗原検査を行った。

この患者への治療として適切なのはどれか。

- a 予防接種
- b 気管支拡張剤
- c アマンタジン投与
- d オセルタミビル投与
- e マクロライド系抗菌剤投与

58 42歳の男性。約5年前から嚥下時に食物のつかえ感を自覚していた。最近つかえ感が増悪し、時々食物を吐き出すようになった。食道造影写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 消化管運動促進薬が有効である。
- b プロトンポンプ阻害薬が有効である。
- c 手術的治療としては、噴門形成術（Nissen法）を行う。
- d 食道内圧検査では下部食道括約筋の機能は正常である。
- e 手術的治療としては、下部食道筋層切開術（Heller法）を行う。



食道造影写真

59 31歳の女性。四肢の脱力と便秘を主訴に来院した。これまでも手足に脱力感を自覚する事があったが自然に軽快していた。意識は清明。身長 160 cm、体重 45 kg、血圧 93/50 mmHg。四肢の筋力低下と軽度の深部腱反射低下を認める。尿所見：蛋白（-）、潜血（-）。血液所見：赤血球450万、Hb 14 g/dl、Ht 43 %、白血球 5,600、血小板 30 万。血液生化学所見：総蛋白 7.0 g/dl、アルブミン 3.8 g/dl、クレアチニン 0.78 mg/dl、尿酸 5.6 mg/dl、Na 139 mEq/l、K 2.8 mEq/l、Cl 95 mEq/l、Ca 9.1 mg/dl、P 3.4 mg/dl、血漿レニン活性<PRA> 20 ng/ml/時間（基準 1.2~2.5）、アルドステロン 32.1 ng/dl（基準5~10）。動脈血ガス分析（自発呼吸、room air）：pH 7.48、PaO₂ 98 Torr、PaCO₂ 48 Torr、HCO₃⁻ 35 mEq/l。

考えられるのはどれか。2つ選べ。

- a Liddle症候群
- b 習慣性嘔吐症
- c Fanconi症候群
- d Gitelman症候群
- e 原発性アルドステロン症

60 57歳の女性。5月頃より軽度の咳嗽と38~39℃の発熱が出現し、4~5時間持続したあと自然に解熱する症状を繰り返していた。近医を受診し、抗菌薬と消炎薬の投与を受けたが症状は改善しなかった。7月中旬に旅行に出かけ、旅行中は症状が改善したが、帰宅後より再び同様の発熱に加えて乾性咳嗽、全身倦怠感、労作時呼吸困難も伴うようになり、紹介受診となった。聴診にて両側下肺野背側でfine cracklesを聴取された。

この患者で認められる高分解能CT所見はどれか。2つ選べ。

- a 小葉中心性粒状影
- b 牽引性気管支拡張像
- c すりガラス状濃度上昇
- d 両側下肺野末梢に蜂巣肺陰影
- e airbronchogramを伴う浸潤影

- 61 16歳の女子。顔面の皮疹を主訴に来院した。1か月前、屋外で体育の授業があり、その後から顔面が赤くなった。経過をみていたが改善せず、1週間前より発熱と関節痛を認めるようになった。既往歴はなく、服薬中の薬もない。アレルギーの既往もない。顔面の臨床写真を示す。

診断に重要な所見はどれか。2つ選べ。

- a 口腔潰瘍
- b 手指の硬化
- c 光線過敏症
- d 多形皮膚萎縮
- e ヘリオトロープ疹

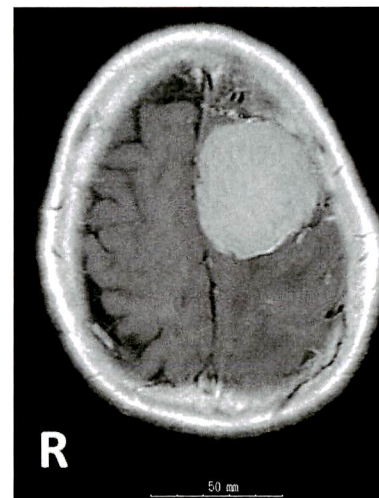


顔面の臨床写真

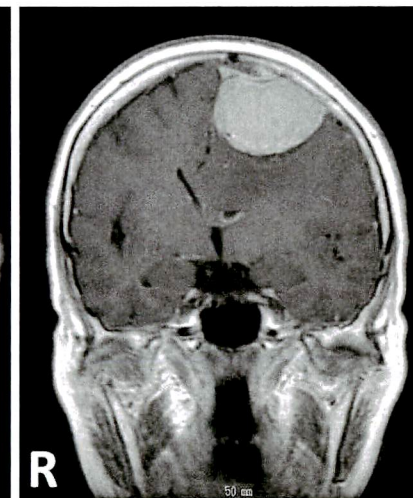
- 62 67歳の女性。11年前から右手での書字のしづらさ、6か月前からは右足の動かしにくさを自覚していた。最近では朝方に頭痛が強くなり、嘔吐するようになった。右片麻痺が進行し、歩行困難となったため来院した。頭部造影MRI T1強調横断像と冠状断像を示す。

適切な治療はどれか。

- a 経過観察
- b 化学療法
- c 腫瘍生検
- d 開頭腫瘍摘出術
- e 放射線治療



頭部造影MRI T1強調横断像



冠状断像

63 70歳の男性。下血を主訴に来院した。

現病歴：3か月前から便秘気味となり、毎日あった排便が2日/週となった。3週間前から便柱の狭小化を認めるようになり、2週間前から下血（鮮紅色）が出現している。

既往歴：特記すべきことはない。

現 症：身長 172cm、68kg。体温 36.5℃。脈拍 68/分、整。血圧 125/68 mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦、軟で、肝・脾を触知しない。

検査所見：血液所見：赤血球 330万、Hb 8.9 g/dl、Ht 24%、白血球 8,200、血小板 18万。血液生化学所見：総蛋白 6.1 g/dl、アルブミン 3.2 g/dl、AST 22 IU/l、ALT 24 IU/l。免疫学所見：CRP 3.3 ng/dl、CEA 7.8 ng/ml（基準5以下）。注腸造影写真と大腸鏡写真を示す。

診断はどれか。

- a 内痔核
- b 直腸GIST
- c 直腸早期癌（Ⅰs）
- d 直腸進行癌（Ⅰ型）
- e 直腸進行癌（Ⅱ型）



注腸造影写真



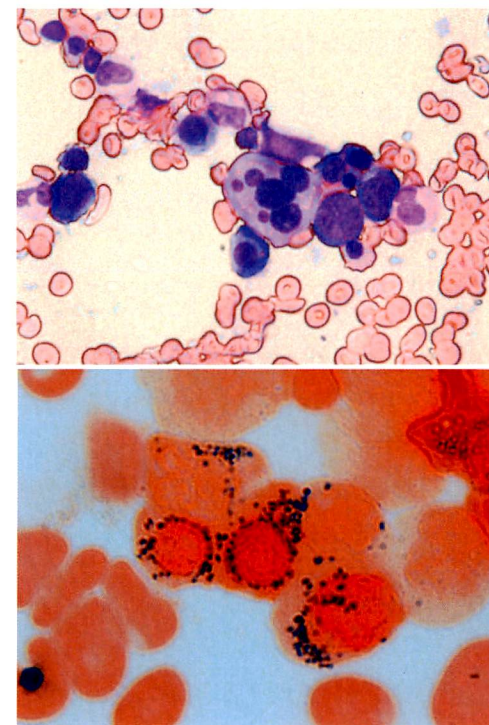
大腸鏡写真

64 71歳の男性。全身倦怠感を主訴に来院した。血液所見：赤血球396万、Hb 8.7 g/dl、血小板 7.5万、Ht 29%、網赤血球 20.0%、白血球 4,200（芽球 0.0%）。血清生化学所見：総ビリルビン 1.2 mg/dl、AST 40単位、ALT 40単位、LDH 520単位（基準 119-229）、尿素窒素 20 mg/dl、クレアチニン 1.6 mg/dl、Fe 260 μg/dl、血清フェリチン 320 ng/ml（基準 20～120）。骨髓は正形成でM/E比 1.6、全有核細胞中に占める芽球の割合は 2.3%、核型は 46XY。骨髓像（(1)、(2) カラー写真）を示す。

鉄染色に示した細胞が、全有核細胞中 20%を占めていた。

正しいのはどれか。

- a リツキシマブが著効する。
- b 貧血は無効造血によるものである。
- c 積極的に自家造血幹細胞移植を行う。
- d JAK2遺伝子の異常を伴うことが多い。
- e 90%以上が1年以内に急性骨髄性白血病に移行する。



65 24歳の男性。定期健診で異常を指摘された。身長 176 cm、体重 65 kg。血圧 120/76 mmHg、脈拍 64回/分。診察上心肺腹部に異常所見なし。眼瞼黄色腫とアキレス腱の肥厚を認める。血液生化学所見（空腹時）：総コレステロール 374 mg/dl、中性脂肪 86 mg/dl、HDLコレステロール 40 mg/dl。尿所見は異常なし。

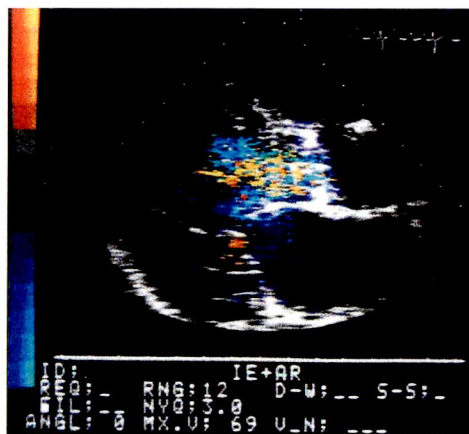
この疾患について適切なのはどれか。2つ選べ。

- a 常染色体優性遺伝がみられる。
- b 糖代謝異常が高頻度にみられる。
- c 空腹時に採血した血清が白濁する。
- d 低比重リポ蛋白（LDL）が減少する。
- e 若年者でも心筋梗塞を起こしやすい。

66 60歳の男性。胸痛と息切れを主訴に来院した。約6か月前からめまいと前胸部の圧迫感を自覚していた。身長170cm、体重69kg。脈拍82/分、整。血圧 170/30 mmHg。胸骨左縁第4肋間に拡張期雑音を聴取する。呼吸音は正常でラ音を認めない。カラードプラー心エコー図を示す。

本症例で認められると考えられる聴診所見はどれか。

- a I 音亢進
- b 僧帽弁開放音
- c 収縮中期クリック
- d 心膜摩擦音
- e 高調性全拡張期雑音

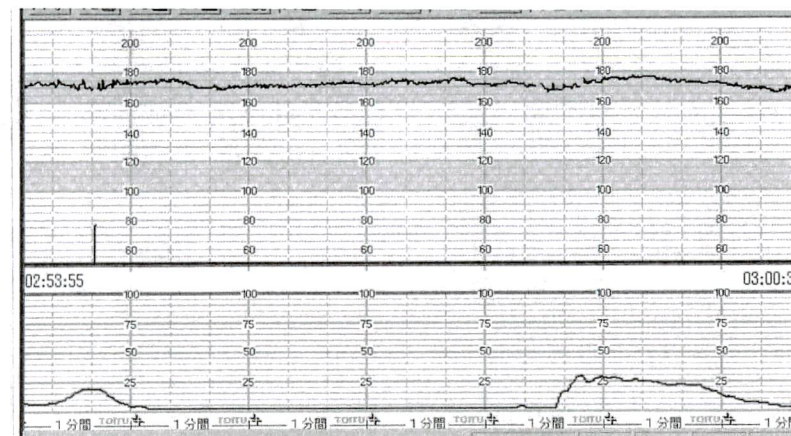


カラードプラー心エコー図

67 28歳の初産婦。妊娠 32週、妊娠高血圧症候群で入院管理中のNST（non stress test）所見を示す。超音波断層法で羊水指数（AFI）は 7 cm、胎児推定体重は 1,600 g で手掌の開閉動作（1回/30分）、胎動（3回/30分）を認めるが呼吸様運動は認めなかった。

バイオフィジカルプロファイルスコアは何点か。

- a 2
- b 4
- c 6
- d 8
- e 10



入院管理中のNST（non stress test）所見